

地目	反別又は坪數	地目	反別又は坪數
田	七、二三〇・六〇七反	池 沼	三・三〇六反
畑	三、四四八・三一六反	免租地	七五・八二七反
宅 地	二七一、六九四・二六二坪	雜種地	〇・七〇二反
山 林	二九二・七二三反	墓 地	二五・〇二二反
原 野	二〇・〇二〇反	合 計	一一、〇九六・八〇二反
神社境内	一一・八三六坪		二九二、七五〇・二六坪
寺院境内	八・二二二坪		

第二章 地勢及地質

我が國屈指の大平野濃尾の大廣袤は、一望千里これをさへぎる山脈がない。北方は大木曾をへだてて美濃の地に接し西方伊吹の嶺に集る諸山及び養老山脈の起伏する遠景は遙か十數里の彼方に望まれる。

東北には尾北唯一の名所白帝城を目捷に、遠くは日本アルプスの峻嶺、西の伊吹養老の兩山脈と相對して數十里の彼方に聳えてゐる。中にも西の伊吹と東の惠那嶺とは秋冬の候より白雪をいたゞき相競立し、我が村の風景を一層美化せしめる。たゞ南方のみは雲外萬里漠として限りなく其の末は熱田灣の碧波と消える。

さて東方には尾張富士を中心とする所謂尾張丘陵が南より北方にのび、木曾川に依つて中斷されて居る。従つて本村の地勢も東北に至る程高く南西するにつれて漸く低くなつてゐる。

河川の主なるものは木津用水・五條川・名古屋上水道である。就中木津用水は荒井に於て木津用水、合瀬川の兩用水に分れ南流し五條川と共に數百町歩の田を灌溉してゐる。

地質は木曾川の沖積層より成り西は葉栗中島の兩郡に亘り南は西春日井郡、海部郡の一体に連つてゐる。而して東は犬山町より南へ遠く名古屋市に續く洪積層である。

第三章 氣 象

第一節 温度及天候

氣候や温度は本村及本村に連る平原地帯一帶に同一であるからこれが記述も亦本村に限れる特別の暖寒晴雨のあるわけはない。併しながら本縣の北部に位し、北方に木曾川があるに依り、多少其の影響を受くることがあると思ふが大體に於て本村の温度及び氣候は共に適當で、所謂五風十雨の感がある。晩秋の候より冬期に入つては西北風しきりに吹きすさび之に伴ひ時としてはげしい寒氣をおび來ることがある。之を伊吹嵐と稱へる。